

\*\*\*\*\*  
“New Dimension in Evangelical Thought” by D.S.Dockery, Editor

ディビッド・ドッケリー編集による

「福音主義的思索における新しい次元」

Chapter 2. Millard J. Erickson : Theologian for the Church

第2章 ミラード・J・エリクソン：教会のための神学者

序

\*\*\*\*\*  
- 概要 -

序

第1節 エリクソンの神学を形づくった人々

第2節 エリクソンにおける情況

第3節 神学の定義と方法

第4節 啓示

第5節 聖書

第6節 神、創造、摂理

第7節 人間の罪

第8節 キリスト、御霊、救い

第9節 教会と終末

結論

\*\*\*\*\*  
序

過去40年間のアメリカの福音主義運動は、基本的に超教派の運動でした。例えば、ビリー・グラハムやカール・ヘンリーはバプテストとしてよりも即座に福音主義者として認識されます。同じことが他の多くの人についても言えます。ある人々には、福音主義者であるとともに教派に忠実な人間であり得るのかどうか疑問に思われるかもしれませんが。しかしそれに反して、ミラード・エリクソンは福音主義世界において最も卓越した神学書の著作者となっただけでなく、忠実なバプテストでもあり続けました。エリクソンの遺産はしっかりとバプテストの生活に根を下ろしています。スウェーデン人の祖父母から受け継ぎ、そしてバーナード・ラム、カール・F・H・ヘンリー、と特にE・J・カーネルのような「新福音主義」の神学者たちへの彼の初期の魅力と結び付けら

れた、この遺産はバプテストと福音主義の神学者たちに新しいモデルを結実させました。

個々のクリスチャンにとって、彼らの神学の基本的中心的な特性描写を系統的に述べることは必ずしも必要なことではない。しかしながら、しばしばこれは助けとなることである。ときどきこの主題はその人の教派を反映する。たとえば、改革派の伝統のある人々は神の主権を強調する。しかしながらルター派のある人々は神の恵みと信仰の役割とを強調する。私たちが私たちの神学に特性を与えるやり方は、しばしば私たち自身の人格と背景に関係している。個人の希望にあわせてつくるやり方は、私たちが私たち自身の生活の中にそれを取り入れるときに、聖書の真理をより実用的なものとする。

ミラード・J・エリクソンは、1932年6月24日にミネソタ州のミネアポリスの近くスタンチフィールドで四人兄弟の末っ子として生まれました。彼の父親は、たったの六歳のときに祖父母を含む多くの親戚と一緒にアメリカ合衆国に来ました。彼の母親はその両親がスウェーデンから到着後ほんのひと月ほどのうちにこの国で生まれました。

エリクソンは、六人家族を養うのには十分でありましたが、あまり多すぎることもない生産規模の家族の農場で成長していきました。風車は水道水を供給し、家族は週一度の風呂のために台所のストーブの上で水を温めなければなりませんでした。エリクソンは、ついに電気が農場にもたらされた、彼が高校生の時期まで、灯油のランプのもとで勉強しました。

フットボール、バスケットボール、野球、そして音楽のプログラムに参加していた多芸多才であったエリクソンは、彼の生涯を通じて優れた学問的才能を明らかにしました。徒歩で一マイル半の一部屋あるだけの学校で彼の教育が始まりました時、幼き日のエリクソンは二学年を二回進級しました。そして、彼は1949年にブラハム高校を首席で卒業しました。

彼の家族の伝統はしっかりバプテストの伝統に根を下ろしています。彼の祖父と祖母はミネソタ州に植民して後すぐバプテスト教会において活発な信徒でした。五年後に、彼の祖父は彼らの家に組織されたバプテスト教会の信徒牧師として仕えました。この教会において、幼い少年のときに冷静な経験において、エリクソンは福音のメッセージに応答し、回心しました。

高校生活の後に、エリクソンはベテル大学に入学手続きをとりました。彼ははじめミネソタ州立大学に入学する計画を立てていました。しかし、摂理的な環境と彼の牧師の励ましを通して、彼はキリスト教大学に入学することにしました。その夏、彼の牧師は教会のソフトボールの試合に参加し、水曜の夜の奉仕で説教ができなかったとき、ひとつの衝撃を受けました。ミラードはその説教の奉仕を立派に果たしました。牧師は大変強く印象づけられたので、フルタイムの専門的なキリスト教の奉仕への献身を考慮するように彼を励ました。

エリクソンはベテル大学で二年間を費やし、その後に世俗の思想のより広範に学びを得るためにミネソタ州立大学に移りました。彼は哲学を専攻し、心理学と社会学を副次科目として学びました。エリクソンは1953年にフィベタカップを得て卒業しました。彼はその後、シカゴにある北部バプテスト神学校移る前に、ベテル神学校に入学手続きをするためにベテル大学に戻りました。ベテル神学校にいる間に、彼はその時ベテル大学の学生でありましたバージニア・ネブスタッドに出会いました。彼らは1955年8月20日に結婚しました。エリクソン夫婦には、1959年2月23日にキャサリン・スー、1962年5月1日にサンドラ・リン、そして1964年9月20日にシャロン・ルツの三人の娘が与えられました。

ベテル神学校においてバーナード・ラムに出会ったとき、エリクソンは、カール・ヘンリーや E.J.カーネルを含む新福音主義神学者の研究にひきつけられていきました。彼はこの人生の形成する時期に彼の神学を形作り、キリスト教弁証学へのアプローチを伴ったカーネルの研究を評価しています。それらの新福音主義神学者たちへの彼の関心は、発展し続け、彼の最初主要な出版と同様に Ph.D の論文の主題になりました。

北部バプテスト神学校を卒業した後、エリクソンはシカゴにある多民族の会衆をもつ、フェアフィールド・アビニュー・バプテスト教会の牧師となるようにと招聘されました。1957年3月21日に、彼はこの教会での奉仕のために按手されました。聖書的かつ思索と生活経験の今日的形式に实际的に意味をもつ神学に取り組みたいというエリクソンの生涯を通じての願いは、この重要な牧会経験のうちに育まれました。ここで彼はキリスト教のメッセージを都会の知識人と労働者の双方に対して意味あるものとすることに挑戦しました。エリクソンは、神学的取り組みについての理解を発展させているときに、パウロ・ティリッヒの相互関係(呼応)の方法から多くのことを学びました。

1956年に北部バプテスト神学校における学びを修了したとき、彼は1958年に卒業することとなるシカゴ大学における哲学修士課程に登録しました。彼は哲学以上に神学に関心を抱いていることに気づき、シカゴ大学で博士課程を続行しないことに決めました。その代わりに、彼はウィリアム・ホーダーンの監督の下で、ガレット神学校とノースウェスタン大学において提供されている共同の哲学博士課程に登録しました。

ノースウェスタン大学でのコース学習の終了後、ミラードとヴァージニアは娘キャサリンと共に、オリヴェット・バプテスト教会での牧師の職務を受け入れたミネアポリスへと戻りました。そこで彼は博士課程の試験を終え、1963年にヘンリー、ラム、カーネルの神学に関する博士論文を書き終えました。牧師の職務と彼が愛した教会を離れることに純粋な葛藤と幾らかの不安なしではなかったけれども、エリクソンは1964年にホウィートン大学で聖書と弁証学の助教授としての立場を受け入れました。彼は1967年に学部長に選ばれました。

エリクソンは論文を改訂し、それを「新福音主義神学」として出版しました。1969年に、彼はベテル神学校で神学の教授とともに経営に携わる副学長そして学部長としても仕えつつ、神学を教える立場を受け入れました。近年、彼は北米と世界各地のさまざまな学校で客員教授や講演者として教会に仕えています。数え切れないほどの論文、書籍における章、評論に加えて、エリクソンは、多くのバプテストと福音派の神学校で基準的な組織神学の教科書となった、印象的な三巻からなる「キリスト教神学」を含む沢山の書籍を著し、また編集しました。エリクソンはまた、「キリスト教神学における文選」という三部作を編纂し、27の章において鑑定し、考察する12巻をこえるものを著しました。

エリクソンの三巻からなる神学書（**Christian Theology**）は当時の主要な神学者の間に彼を位置づけることとなりました。第一巻は彼の最初の神学教師でありましたバーナード・ラムにささげられました。第二巻は彼の博士課程の指導教官であり、その個人的な賛辞を書いたウィリアム・ホーダーンにささげられました。第三巻は彼の博士課程修了後の指導教授で、エリクソンが1976年に長期休暇の年を費やし、神学と文化に関するこの書物における章に従事することに貢献してくれたミュンヘン大学の著名なドイツ人神学者ウォルフルト・パネンベルクにささげられました。「キリスト教神学」の書物は組織神学における今日的な教科書に対する強い必要があることを看取したことから発展させられてきました。その計画は、彼が1週間に1章のペースで書き始めた198

2年6月1日に始められました。彼は11月の終わりに第一巻を書き終えました。エリクソンはその主題を冬季の間に教えていたとき、次の10週間をかけて第二巻のおおまかな草稿を書きました。彼はすぐに第三巻に取りかかり、彼の長期休暇のその年の間に完了しました。翌年、彼は第二巻と第三巻を見直すために使いました。エリクソンは18年間の教師生活に加えて、彼の家族が「その本」と呼んでいるものに4000時間以上を注ぎ込んだと見積もっています。

エリクソンの多くの神学的関心は、第三世界神学、プロセス神学、黒人神学、今日の言語学の分析、宣教、ポスト・モダニズム、ポスト・コンサーバティズムに焦点を置いた彼の継続中の研究課題において明らかです。しかしこれらのこと以上に、彼は第一義的に牧師でありました。彼は過去30年間ほぼ50の教会に仕えつつ、暫時牧師の職について奉仕を続けました。彼はスピーカーとして人気があり、また重要な教派の委員や理事として仕えました。ほぼ20年間、エリクソンはバプテスト世界同盟の働きを担い、多彩なバプテスト系の単科大学、総合大学、神学校で教えつつ、彼自身の教派以外のバプテストの働きにおいて活躍しました。

この種の付託はミラード・エリクソンを、私たちの時代における最も尊敬されるバプテストであり、福音主義の神学者としました。彼の神学的研究書は、疑いなく次の世代のバプテストと福音主義教会の指導者たちの思想と生涯を形作るために用いられました。

- 中略 -

## 結論

エリクソンの神学的取り組みの貢献は、バプテストと福音主義の思索における重要な里程標です。彼の注意深い働きは、入念な研究、批評的な論証、そして聖書資料の靈的に鋭い理解を証ししています。彼の神学は首尾一貫し、掘り下げられた主題をもって全面的に広げられ測り知れない重要性をもっています。

エリクソンの神学は彼のバプテストと福音主義の遺産に忠実です。それは、正統的であるとともに今日的なものです。しかし、それは一時的流行とか過度に革新的だっったりはしません。一般的に、すべての主要な問題に関して、エリ

クソンの神学的構成は、聖書的かつ古典的なものと考えられます。彼の働きの真の力は、教会に対する全般的な関心と神を讃える音色のうちにあります。

彼の最も顕著な力は、彼のバランスのとれた神学の方法、注意深く聖書の微妙な意味合いをみる見方、そして正統主義神学を今日の生の諸問題に関係づけることへの関心です。また、彼は組織神学の首尾一貫性の重要性、神学的謙遜の徳、そして永遠な主題と時間に縛られた主題との緊張を証明しています。

彼は継続して多様な選択肢への開放性を反映し、今日の神学における諸問題への広範な理解を明示しています。彼の神学は明らかに教える働きの脈絡から生まれながら、それは特徴として調停的で、新鮮で、そして牧会的です。

書き留めてきたように、エリクソンの主要な貢献は、彼の神学的方法と彼の啓示についての教理についての創造的な解釈です。端から端まで、彼の神学は聖書的、今日的、そして实际的です。彼は、キリスト教会で何百年にもわたって神学研究されてきたことについて十分に知っていながら、今日的傾向への開放性を表明しています。彼は、彼の所属するバプテスト派と福音主義の遺産に忠実でありつつ、今日の神学の発展との意味深い相互作用を統御しています。

彼の著作には多くの長所がありますが、その弱点はあまり見受けられません。エリクソンの神学にも改良の余地はあります。しかし今日福音主義の神学著作でより優れた利用しうる有用なものはありません。彼の著作はドナルド・ブロッシュの著作よりも包括的であり、カール・ヘンリーの著作よりは威嚇的ではありません。ヘンドリクス・ベルコフの著作よりも冒険的ではありませんが、ルイス・ベルコフ、J・オリバー・バズウェル、L・S・シェーファー、そしてチャールズ・ホッジの著作のような伝統的な福音主義神学と比べて防御的でもありません。彼の神学は、A・H・ストロングとかヘルムート・ティーリケの著作よりはるかに読みやすく、ブルース・デマレストやゴードン・ルイスの著作よりも引き込まれます。彼の以前の同僚であるジェームズ・レオ・ガレットの著作ほどは包括的ではなく、ウェイン・グルーデムの著作と比べて教育学的で親しみやすいものではないけれども、それらに比してより創造的です。エリクソンの著作は確かにバプテストの強調に忠実です。しかしそれはW・T・コマー、E・Y・ミューリン、デール・ムーディ、またモリス・アシュクラフトの著作よりもより一層包括的であることを明らかにしています。彼の著作は第一級の業績です。そして以下の各章はミラード・J・エリクソンのバプテストと福音主義の神学への貢献の意義を証言しています。

\*\*\*\*\*

以上、約10ヶ月間配信させていただきました「第2章 ミラード・J・エリクソン：教会のための神学者」の翻訳・解説の電子メール講義録「*One More Paragraph ! - 福音主義的思索のひとつ -*」の翻訳部分のみを紹介させていただきました。解説部分まで入れると四、五倍のページ数になりますので、今回はひとりでも多くの方にエリクソン博士の『キリスト教神学』の全貌を知っていただきたくて、このようなかたちとなりました。